

人の縁。この大切さをいつも強く感じていた。今日、私がここまで来れたのも、その折々に出会った方々の教えや支えがあったからこそだと思っている。

私の履歴書

一 匡 頭 江
いち きょう けい げ

27

私がまだ四十代初めごろから東京、大阪の財界人ともいろいろお付き合いしてきた。
そのひとりが、ソニーの盛田昭夫氏だ。十日ほど前、その盛田氏の長子夫人からはがきをいただいた。療養のためハワイに移られて数年が過ぎたが、この連載を毎日楽しみに読んでくだ

さっているというお話だった。思えば、盛田夫妻とのお付き合いも三十年近くになる。きっかけは「経済社会研究会(KSK)」だった。

KSKは一九七〇年代初め、日本の将来を心配された盛田氏が主宰して設立した会だ。創設にあたって九州から二人ほどというところで、四島司氏(福岡シ

ティ銀行頭取)がまず選ばれた。「もう一人だけか推薦してほしい

盛田昭夫氏から厚意

財界人との勉強会、財産に

い」といわれ、四島氏が私を推薦してくれたのだった。

当時京セラ社長だった稲盛和夫氏、ウシオ電機社長の牛尾治朗氏、東京大学教授の衛藤藩吉氏ら約三十人が参加した。とき

の経済、政治問題などについて勉強会が月一回開催された。まだ会社の規模もそれほどはなかった四十代の私は、そろそろたるメンバーの勉強会で毎回大いに刺激を受けたものだ。

先輩経営者として大変尊敬していた盛田氏が、会のメンバーたちと、わけへだてなく接する態度には感心させられた。以来、長いお付き合いをさせていただ

いている。ロイヤルの幹部のための講演や本社・工場の完工式の折などにも、しばしば自家用機ファルコンでご夫婦で来られた。八六年、私の女婿が突然、白血病と診断されたときも大変お

世話になった。都内の東京大学医科学研究所付属病院に転院させたのには、一般の飛行機が利用できないことを知り、自家用機を手配してくださったのだ。そのおかげで翌日、その病院に無事移動することができた。

「あと二週間もつかどうか」と言われたが、手厚い治療によって、それから七月ほど彼の寿命は延びた。あるとき三歳だった孫は、もう高校一年だ。亡

き女婿に似てきた孫を見るたびに、盛田夫妻のご恩に感謝している。

人の縁といえば、ハンナンの浅田満利氏にはいろいろとお世話になった。大阪万国博覧会の後、急速に店舗数が増えた七〇年代、私たちは牛肉の確保に苦



(左から) 盛田昭夫、元興銀頭取・中村金夫、四島司の各氏と

いのある人柄に信頼を寄せ、七年には合併で「ロイヤルハンナミートパッキング」を設立、当時珍しかったポーシヨンカットステーキの工場を大阪につくった。二十年后、茨城県に完成した関東工場とともに、札幌から沖縄までの六百店に肉を供給している。

KSKのほかにも、日本商工会議所会頭だった五島昇氏の創業者たちの会「初心会」では、ダイエーの中内功氏やワコーの塚本幸一氏らと一緒し、ときの国際問題から経済、政治問題さらには政財界の裏話まで、いろいろな話を聞くことができた。

労していた。当時、牛肉は商社を通じてしか輸入できなかった。何とか安定的に確保したいと、日本でも有数の食肉商社を経営する浅田氏にお願いすると、氏は快諾してくれた。七二年の取引開始以来、年下ながら浅田氏の情に厚く頼りが

(ロイヤル創業者取締役)